

松伊并信并
上

C.L. 三井和夫

今命運は、終始變じ易い天候に泣かされ、毎日満足の運転が出来ない。これは駕機変更の判断力・行動力に於いてのオーラ太閤は多くが、自分が運ぶ事は駕の運び方であつた。運転手は運転手自身で、新人の基礎技術の訓練は運転手自身、年齢等の若齢の運転手は不十分だ。太閤は運転手が本が、吉為、2年生の運転手運べる。大人達は運転手が本が、Leader として欠點は指摘される。

○ 準備会議

○ 能干の回、合宿前、計13回以上参加する事を選ばれた。
この回しかしなかった者は尚異外であるが、若トレーニングにはまだ餘裕がない。自己開拓、自己成長にはしても新しい、
戦争をしていない、本格的な立場にて、又、自分
が持つ知識をもって、有効に研究する立場にしておけ
る。どうか、運転手の認識不足が指摘される。

年月19日の命運署では、令後もやった方が好い。
○ 山域研究、部会も兼ねては研究不足があり、その後
研究した者としない者が「たが、全般に概念はつかめ
たと思う。西面に關には、今後問題がある。

○ 健康管理、入山前から体調の悪い者が幾人も。太
谷部毎にたたかれた事もあり、全員風邪をひきました。
下が、腰痛などは、今後入山前までに治し、入山前の体調
万全余程注意する様。

○ 食事、1日いかなかたが、各係ごとに出来事とせ
むたが為、スムーズに終った。1・2年共、めぐせございました。

※ 生活技術

命宿前半は、1・2年共何をやつてもかまらない状況が
いた。後半に於ては、4年生が走ったことは出来ましたが、
自分から進んで何かといふ事は少く、何をするかといふ
困難を度々走る様に注意された。

勝手な行動が多い。特にEsenの事に走った者は、ハミハミ食いたい
Esen以外の人を使、自分の事は二十内ごく待つ事などといふ行動
は今後ない様に、互勘の結果がござりました。

新嘉山莊集

其事無以，而子不聽也。人謀心以計，若不為
而爲之往，出而見其船，一當「今者雨更甚」，子終不至。
大約客心。自今人於西竹之村，則不否矣。客之於此，固已
止於此，不知誰在焉。丁未之夕。

既に、十行詩結は、本の題名もですが、ルートスリーブンさんは不思議でいい。

$f_1(x) = \frac{1}{1+x}$ は不十分であり、半直線で補むべきを意味する。

本題之技術

本邦は、歴史的に神農葉子十萬石、技術向上其其一也。
かく、本邦のテクニスが體。體には二種二十。

卷之三

此種小樹之生長，以二十年為限。

卷之三



III. 行動記録

(1) 参加メンバーと各係, [()] は学部と部署

CL. 三井和夫(人文4) SL. 白井武(人文4)

ESSEN. C. 北岡政弘(農2), 豊田信行(農1), 藤原一隆(人文1)
装備. C. 福島涉(農2), 斎藤吉盛(農1), 須貝与志明(農1)

記録. C. 牧瀬敏裕(農2), 加藤明夫(農1)
歩外会計. 吉田秀樹(人文2)

気象. C. 白井武(人文4), 小川幸三(農1)
医療. C. 中田茂(人文4), 古橋孝夫(農1)

その他. 川口隆(農4), 三坂健次(農5)

服部幸雄(農3), ※腰痛のため、BC設営まで参加。

寺沢氏(OB) 26日より途中から特別参加。

(2) 行動記録 (記録係の独断により、第2次 RCC 編「日本の岩場」に
出ているルート図はすべて省きました。せかく書いていたみたい
(ルート図は松本部室に保存するので1年生はとくに参考にして欲しい。)

8月21日 ①→② その他の一部ルート図も省略。

CL. 三井以下16名

(5.50) 松本部室出発 → 大町 → 扇沢(7.30着) → 黒4ダム(8.00着) →
内蔵助平(13.30着) 設営

40Kgの荷は、1年生にはとくにこたえたようだ。藤原が少しバテるがみんな無事に
今日の設営地である内蔵助平に着いた。テント場はゴミの臭いが強烈でよい所
ではない。(加藤)

8月22日 ①→②→③(→④→⑤)

CL. 三井以下16名, 真砂沢 BCより服部キー11°

(6.10) TS発 → ハシゴ谷乗越(7.50着) → 真砂沢 BC設営(9.50着)
→ 別山平(12.30着) → 途中の雪に溪にて雪上訓練(13.20
13.10着) → BC着(14.50)

昨日より肩にいいこむ。ハシゴ谷乗越は水が多くパンは食えないし、えらかた。BCに
着いてからは、雨が降って欲しかった。そうすれば雪上訓練がなくなるからだ。しかし、
その願いもむなしく、別山平からの帰りに、キックステップとグリセード(横滑り)の練習を
する。昨日も、今日も考えていた。「何故山に登るのか?」……「……?」えらかた
ただそれだけだった。(小川)

8月23日 ① → ② → ① → ② → ③

- CL 三井、中田、2年、1年 (本隊) ○ L. 三坂、牧瀬 頂峰北壁 L₃
- L. 川口、白井 ハツ山峰 VI. D face ベルニナルート
- 服部3 下山

② 本隊 (5.10) BC 出発 → 長次郎谷左俣・本峰北壁前 (7.25)

7.45～11.15 1年生を主体とした雪上訓練 (キックステップ、ストップ、グリセード、fix通過) ○ 10.05より 三坂、牧瀬、北壁 L₃ へ行く。

11.35 長次郎谷左俣をつめ本峰へ (12.10着) → 熊岩 (14.00) 全員合流
熊岩より ○ 三井、福島 VI. 山峰 C face RCC ルート

○ 中田、北岡 " 剣稜会ルート

○ 川口、牧瀬 " A face 魚津高ルート

残りの本隊、雨のため先に BC に戻る (15.30着)

③ VI. 山峰 D face ベルニナルート L. 川口、白井 3P. ゆ31) 傾斜のスラブ

登攀開始 7.45、終了 10.00 2時間15分

久留米大ルートと同じショックストーン上に取り付き。

垂直壁を登り、ハンドトラバースしてレンゼーに入る (35m IV)

Lace を直上凹角に入る、凹角のつめを左に巻き

Lace 直上、ハング下をトラバースして垂直壁を越す (35m V)

核心部分は抜け、ルートは自由にとれる。Lace を直上 (35m III)

スラブを右斜上、ルートに入り終了 (30m III)
BC (5.00) → 取付 (7.15) →

VI. 山峰の頭 (10.40) → 本峰 (12.00)

本峰にて本隊と合流

(川口記)

4.10.4.

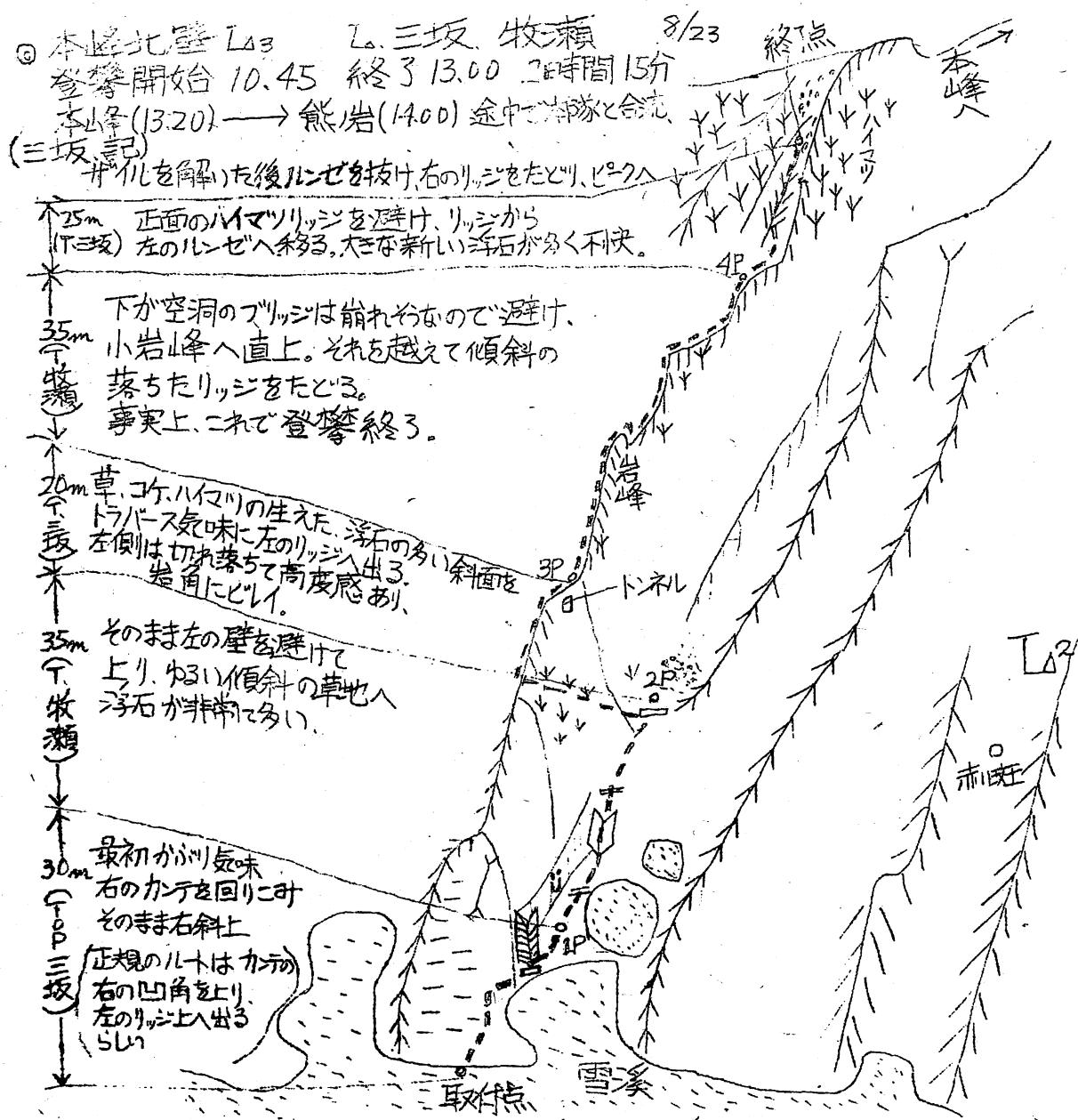
30m

洞穴

C face の裏面壁

取付

雪渓



⑤ T03峰 C face RCCルート 三井福島 8/23
開始 15.30 終了 16.05 35分 3ピッチ
1ピッチ目: TOP福島、例の凹角を目指して登り、凹角の下でピレー。雨が降り始める。
2ピッチ目: TOP三井、凹角の左側を軽快に登り抜け右側へ出る。途中から雨がひどくなる。
3ピッチ目: TOP福島、ピレー点の真上にあるチムニー状の凹角から右上し、ハイマツの中に
入る。ハイマツの根でピレーして終了。(福島記) ルート図略。

熊岩(430)
↓ 50 R.m. —→ BC(5.30着)

⑥ VI峰 C face 刻絆会ルート 中田、北岡 8/23

開始 15.40 終了 16.50 4ピッチ 1時間10分

1 Pitch 終了頃より雨が降り出し、すがぬれのまま登攀を続ける。1P目から上部は、花崗岩の壁でぬねていたが、すべる心配はなかった。晴れていれば、上部は快適な登攀となる。

1 Pitch 目：Top + 7m, ハマツの間の赤土の階級上の斜面を上る。face下の残置ハーケンを利用して、ビレ。

2 Pitch 目：急な花崗岩の face。残置ハーケンが適当な所にある。30m位で確保点 Top 中田。

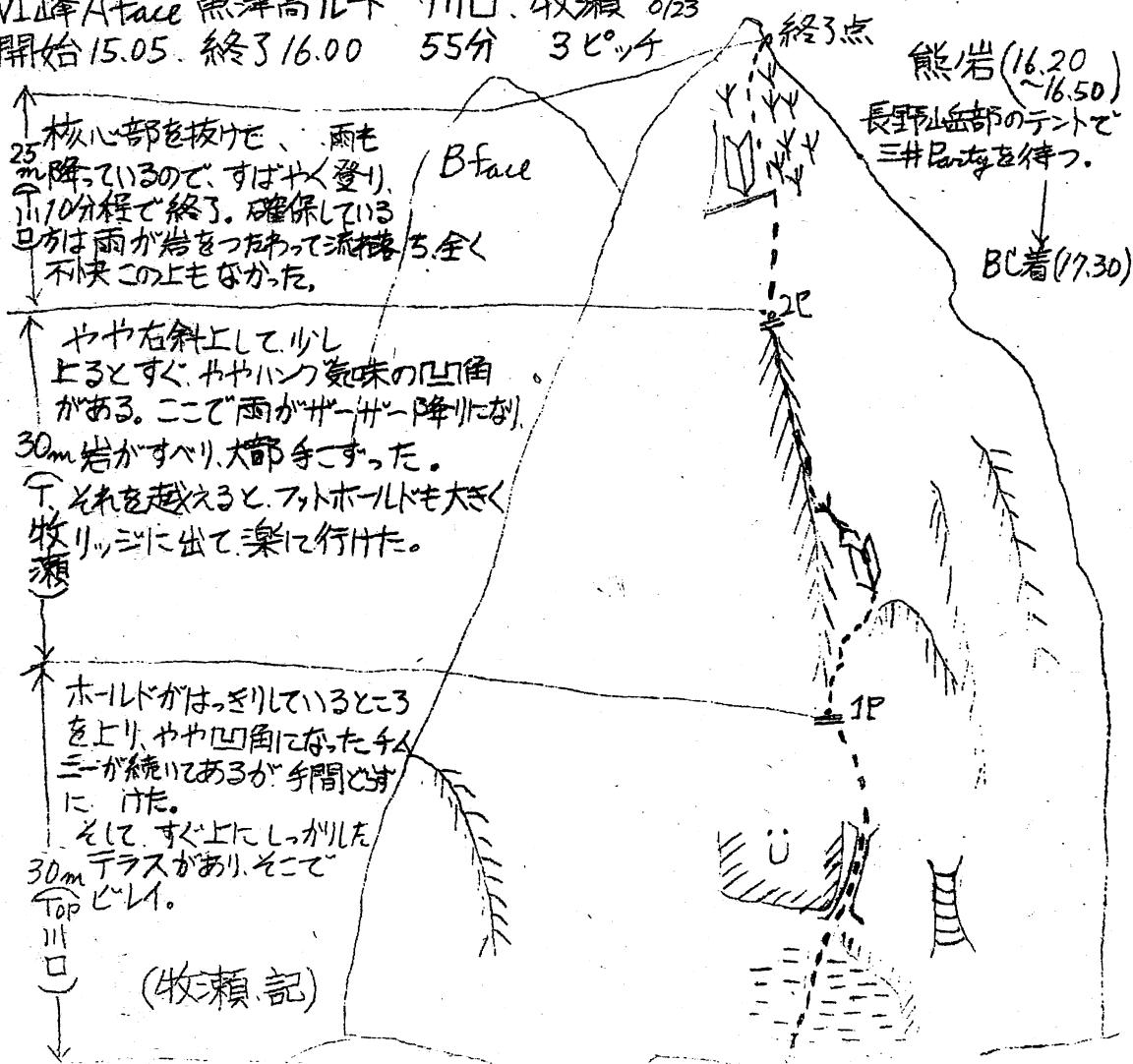
3 Pitch 目：引き続き Top 中田。リッジ沿いに登攀。確保点はリッジの切れ目。

4 Pitch 目：中間寄附はリッジの先端をつかんでのハンドトラバース。岩はしっかりしている。Top 北岡（北岡、記）ルート図略。

熊の岩(12.40着) V-VIのコルで三窓側に降りすぎ、時間をとられた。BC着(18.20)

⑦ VI峰 A face 魚津高ルート 11口、牧瀬頬 8/23

開始 15.05. 終了 16.00 55分 3ピッチ



8月24日 ○→○→○

次渕

ガスにより霧雨から雨は強くなったり、弱くなったりのハッキリしない天気であった。
初めての今合宿の次渕で少し助かる気分であったが、やはり暇だった。
あすまたがん雨だろう。(古橋記)

8月25日 ○時々○

次渕

今日も次渕となる。2日目となると、いさか暇すぎと眠りすぎてたれて
しまった。そろそろ動きだし。夕刻より時々晴れ間が見える。明日は
すきりしないだろうかたがん行動するだろう。(豊田記)

8月26日 ○→○→○

①ハツ峰上半パーティ I.白井、牧瀬、加藤、藤原、古橋、者藤
(5.10) BC出発 → V-VIのコル(7.40) → ハツ峰の頭(9.25) →
長次郎のコル(10.20) ここで源治郎P.と合流、本峰に行かなかた。
→ 熊ノ岩(11.20)

②源治郎尾根パーティ I.川口、北岡、小川、須貝、豊田
(5.05) BC出発 → 取付点(5.30) → I峰(8.40)
→ II峰(8.55) → 本峰(9.40) → 長次郎のコル(10.20) ハツ峰P.と合流。

③ハツ峰下半パーティ I.中田、三坂、福島 (I-Lトトロ、その他次負)
(5.10) BC出発 尾根末端2の沢より → 3の沢左又のコル(8.20)
→ マターピーク先のコル(10の沢コル)(10.40) → II峰(13.05)
→ I-II峰間リビングへ入る(13.45) → BC着(16.00)

想像以上に時間がかかり、V-VIのコルまで行けず。鼻はズルズルし、アヨは、
ブンブン、汗と雨とハイマツと……エラク体を消耗したのでした。(三坂記)

④ハツ峰VI峰Dface 久留米大ルート P. I.三井、吉田

登攀開始 7.30、終了 9.25 3ピッチ

1 Patch目：チョウストーンの直ぐ上より、細かいホールドでfaceを登る。ほぼいはいで
不安定なテラスで出てクリップビレイ、Top吉田。

2 Patch目：すぐ上のハンドに出ると傾斜はぐっと弱まり、ホールド、スタンスも大きくなる。
10m余り残してテラスでビレイ。Top三井。

3 Patch目：引き続いて、Top三井。小さなカニテを乗り越し、スラブを左側より、ハング
の下をトラバース。(5m位) ハングの間を抜けて安定したテラスでビレイ。
テラスより、サイルをとき、草付、ハイマツの階段上になって化食斜面のゆるいfaceを
50m登る。(吉田記)

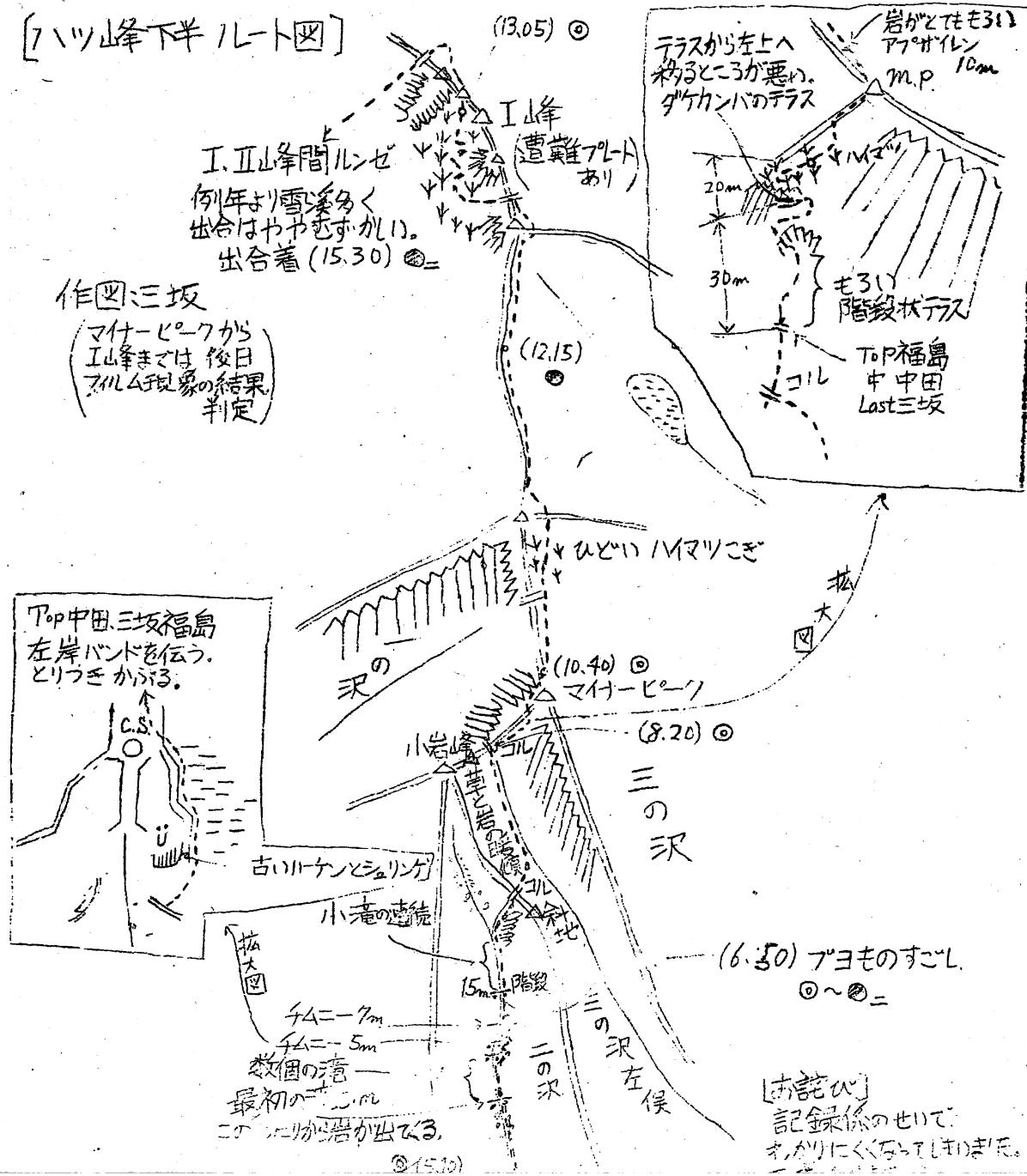
① 熊岩より次の4つのルート

登攀開始と終了時刻(詳細記録略)

- | | | | |
|--------------------|-------|---------------|------|
| ② VI峰 A face 中大ルート | 川口、北岡 | 記録なし | 2ピッチ |
| ③ " B face 京大ルート | 白井、小川 | 13.05 ~ 14.10 | 3ピッチ |
| ④ " C face RCC ルート | 牧瀬、豊田 | 12.10 ~ 13.45 | 4ピッチ |
| ⑤ " C face 剣稜会ルート | 吉田、須貝 | 記録なし | |

昨日につづき、今日も途中から雨が降り出し、不快な登攀だった。(牧瀬記)

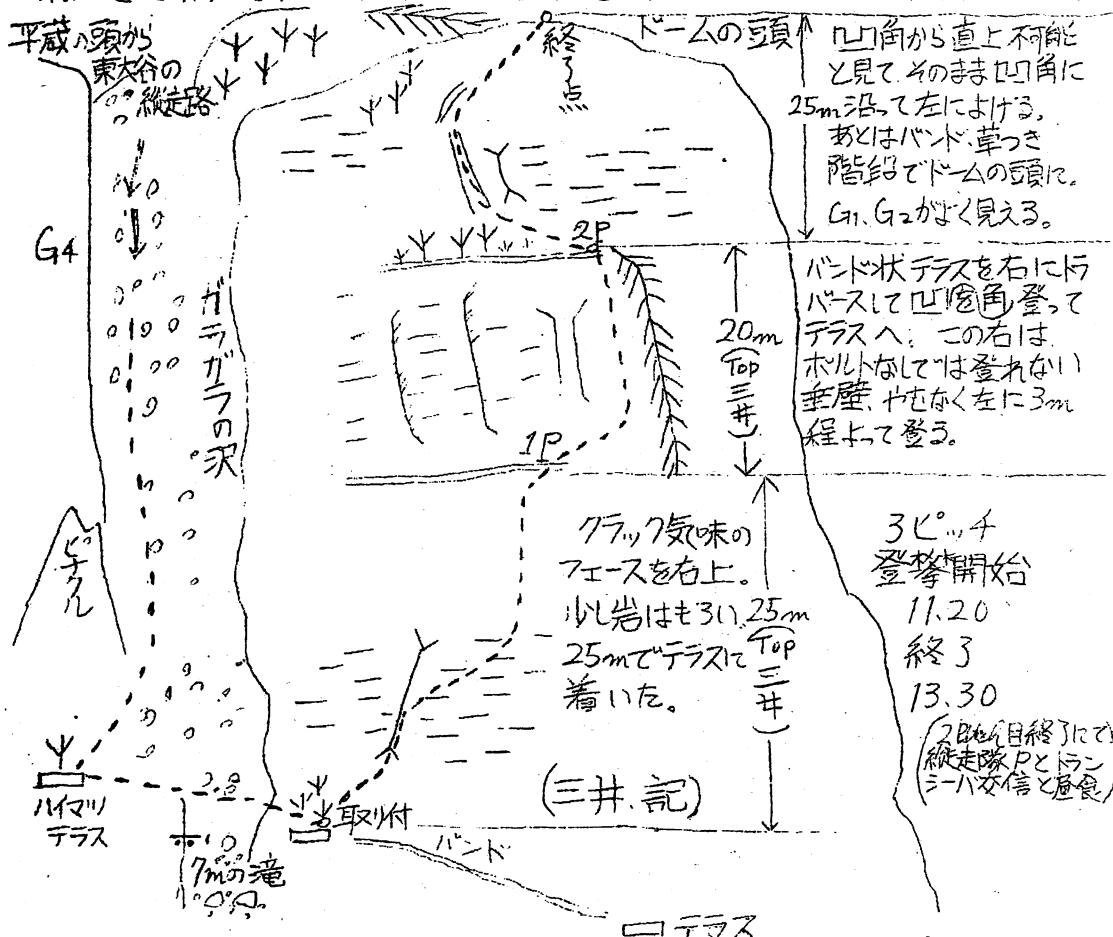
[ハツ山峰下部ルート図]



8月27日 ⑨→○→⑩→○

- ⑨別山尾根パーティ 工福島、三坂、白井、寺沢、者譲、古橋、加藤
(5.10) BC出発 → 剣山荘(6.55) → 平戻谷コル避難小屋(9.00)
ここより白井、者譲は南壁AIに向かう
→ 本峰(11.20) → 熊岩(14.30)

- ⑥ 東大谷G3パーティ E. 三井 中田
(5.05) B.C出発、平蔵谷より、縦走隊と共に平蔵谷コルの避難小屋(8,13)
東大谷はガスで風が強く、しばらく避難小屋で待った。取付点(11.20)



- ⑤剣尾根パーティ 7.11口、吉田 (R10~.) 8/27
(5.00) BC出発 → 池ノ谷乗越(8.30) → コルエ(9:30)
→ コルC(11:30)
→ ドーム(13.50) → 長次郎頭(15.10) → 熊岩(15.45) →
BC(16.30)

池の谷越よりガラガラのガリーを下る。池の谷尾根の末端端当りが壁シマがはじまる。1Pitchで傾斜のゆるいレンゼ(R10)に出、R11を探すが、R11

R10をつめることになる。クルフトもなくコルEへ2分。コルEから傾斜の強い、草付藪の中であるが階段状になた道がコルDへとつなぎで進んで来る。すぐにちょっとした20m位のfaceが出る。核心は5m程であるが慎重にアンザイレンをしてスタック。コルDから1日もん程はいやはBushで腕力を消耗した。しかし、それからはやっとましになってきた。コルJへは池谷右俣側が入り、ドームの壁が立ちはたかっている。ここで縦走隊とコールを交わす。アンザイレンして1P1往復。なかなか手強いがアツミを使って終了。門の取付までノーザイル。ここからはクラックの方のルートを取り20分で終了。あとはドームまで、もう少しレンゼを通って10分。ここで核心を終え1息。この間がくて展望が広げず、残念であった。ここからはBushに悩まされることはないが岩がきつい。何ということもなくチントラと長次郎の頭へ出てしまう。長次郎のコルから熊岩、BCへ。(吉田記) ルート図略。

⑤本峰南壁AI 工白井、齊藤 ガス、西風 8/27

登攀開始 10.00 終了 13.00 3時間 5ピッチ
ルートを右に寄り過ぎるために下部はブッシュが多く少し苦労した。(齊藤記)
ルート図 登攀記録略

⑥熊岩より次の二つのParty(ルート図、詳細略) 8/27

- VI峰C face Rビビルート 白井、古橋 登攀開始 15.00 終了 16.07
最初取付をわがままにしていた。ものすごい所を(スラブ)アンザイレンしないでトラバースをした。このルートがあそこが最も恐しかった。(古橋記)
- VI峰C face 剣稜会ルート 三坂、加藤 登攀開始 15.25 終了 16.25

⑦縦走隊(One by one) Party CL. 牧瀬 SI. 北岡 小川 須貝 豊田 鹿原
27日 BC(5.05) → 平蔵谷 → 平蔵谷のコル(8.13) → 長次郎のコル(9.45)
→ 三窓(10.47) → 池谷二股(12.40) → 池谷泊り場(13.30)
→ 小窓尾根乗越(14.00) → 白萩川ビバーク地(15.05)

平蔵谷のコルまで三井P.と一緒に行く。ガスがひどければ池の谷は下るなどとCL. 三井氏の命令により不安な気持ちで池の谷カリを下るが三窓に着くと、池の谷の陰湿な全容がはっきり分かり、下ることにした。1・2年生だけの構成によるPartyなので落石やスリップなどに注意し、慎重に池の谷左俣を下る。30分程度下た所で剣尾根P.とコールを交わす。しかし、12.00のトランシーバー交信には交信が通じなかった。二股より10分足らずで雪渓がせかれ、右縁を巻いて通る。そこより15分程で左岸にある「池の谷の泊り場」に着く。ここまで全く人の形跡がなかったがテントの張った跡や食料などが捨てられ、剣稜、三ムなどとレンズ�다。小窓尾根を乗越す道は足元踏みづらはっきりとしていて、すぐ見つかる。

池の谷側からの小窓尾根の乗越す道は3��間足らずでコルに着き、白萩川側から登る方が時間的にも体力的にもえらそうである。白萩川河岸に出て雷岩の岩小屋を探したが見つからず、小窓尾根への道の入口にツェルトを張り、夜少し雨に降られたがツェルトの表面がぬれた程度で助かった。今日は精神的に随分疲れた1日であった。(牧瀬記)

28日 ①一時①

(6.00) ピバーカ地出発 → 白萩川逆行 → 大窓(11:00)
 → 池の平山(14:45) → 北股 → 剣天二股(16:10) → BC(17:05)

昨晩18:00と今朝(5:00)のトランシーバー交信も通じなかたよう少し不安な面持ちで白萩川を逆行。雪渓はほとんどなく東西仙人谷の出合付近に少しあるだけだった。その出合から大窓に突き上げる沢は水は流れなくガレ沢だった。沢のつめは沢がはっきりせずハイマツやブッシュの間にこいで大窓に出た。大窓からは足跡のはっきりした稜線づたいで、岩峰が多く思ったより時間がかかり、池の平山に着いたのは14:00になってしまった。途中池の平山より3つ前のピーコ川口氏とトランシーバー交信をする。時々視界もよくない、チヌを登攀した三坂氏のコルが聞こえ、向こうからはこちらの姿も見たとのこと。池の平山からは池の平山荘、北股経由でBCへ戻る。何事も事故がなかったのは幸いだった。

(牧瀬記)

[白萩川上流 東仙人谷、西仙人谷出合付近]



8月28日 ②時々①

- ②源治郎尾根パーティ 川口、吉田、三井、吉橋、加藤、斎藤、川口(池の谷コル)、中田寺沢(2人本峰まで)
(ハツ山峰上半下降)

(5.55) BC出発 → 取付のルーゼ(6.20) → I峰(8.40) → II峰(9.30) →

アップザザン終了(10.20) → 本峰(10.55) → 池の谷コル(12.00) →

VII峰Aface下の岩屋(13.35) 川口、吉橋、Cface鍔会ルート登攀

- ②チネ・北条新村、9チムニー、C.dクラック 川口、白井、三坂

(6.00) BC出発 → 池の谷コル(9.00) → 取付点(10.45) → 登攀終了(14.40)

→ 池の谷コル(15.20) → BC(16.40)

[北条新村ルート] 開始10.45 終了12.40

1 Pitch目: Top三坂、リッジの裏のクラックをまじえたバンド状を伝う。一部傾斜急な場所
おおむね容易。

2 Pitch目: Top白井、白くはげたかぶつ氣味のfaceをアブミを使って越し、あと数回
なびくフリーで中央バンドへ。とても3級とは思えぬ。

[9チムニー、C.dクラック] 開始13.20 終了14.40

1 Pitch目: コンテで中央バンドを抜けた後取付へ。9チムニーからCクラックへ
移るあたりややいやらしい。あとは容易なクラックというよりバンドを
伝う。Top白井。

2 Pitch目: Top三坂、右のbクラックにとどきそう。そのままバンド状のCクラック
を伝う。一部やや微妙などころあり、ゆきづまるあたりから左の
dクラック上部へ乗りがえ、容易にチネ稜線へ。

(三坂記) ルート図略

- ②VII峰Dface久留米大ルート 川口、福島

(5.55) BC出発 → 取付(8.30) → 終了(10.10)

池の谷コルにて源治郎Pと合流。福島は三井とチネ左稜線へ。

登攀時間 2時間10分 4ピッチ (最初福島T.P.つるべ式登攀)

(ルート図詳細略)

- ②チネ左稜線 川口、三井、福島

池の谷乗越(11.40) → 登攀開始(12.10) → 終了(15.20) → 池の谷
乗越(15.40) → BC(16.40)

登攀時間 3時間10分 9ピッチ (最初三井T.P.つるべ式登攀)

核心部は(6.7Pitch目)はハーケンにシェーリングがついていてそれに捕まり
がらアタフタと登る。結局アブミは使わない。途中、プロッケンが見られる。

チネを満喫した楽しいクライムでした。(福島記) (ルート図詳細略)

- ②VII峰Cface鍔会ルート 川口、吉橋 開始15.00 終了16.05 3ピッチ

(ルート図詳細略)

8月29日 ①一時① → ②ガス

②チネ左綾線パーティ 川口牧瀬

(8.00) BC出発 → 熊岩(8.10) → 池の谷コル → 三窓(9.20)

→ 登攀開始(10.00) → 終了(14.05) → BC(15.40)

朝7.00頃まで、2500m付近までガスがかかっていたが見通しのきく、マヤマの天気。三窓では、遠く日本海が見渡せ、能登半島がわかるくらいよい天気であったが、登攀を始めてから天気が悪くなり、ほとんどガスにつつまれてしまった。時々ニードルが見える程度だった。

登攀時間4時間5分 10ピッチ (最初川口Top 变則つるべ式登攀)

1.8ピッチ目の核心部は、川口氏はスイスイ登り、「さすがー」と思ったが、私はフットホールドした大きな石が崩れ落ち、あやしく宙吊りにならどころ。腕力を使い過ぎ、一度アブミで休けいする。10ピッチも長い間登攀したことがないので非常に疲れた。しかし、チネをいかにも登ったという感じで満足感はあった。
(牧瀬 記) (ルート図略)

③本隊(ハツ山峰アビ峰登攀) CL 三井以下14名

(6.00) BC出発 → 熊岩(8.20) 途中キックステップをしてくる。

④熊岩上)次のParty (ルート図、詳細記録略)

• A face 魚津高ルート 福島(Top)、須貝(ミル), 斎藤(ラスト)

登攀開始 9.10 終了 12.05 3ピッチ

• B face 京大ルート 吉田(Top)、豊田

開始 9.00 終了 10.45 3ピッチ

• C face 劍綾会ルート 白井(Top)、藤原

開始 9.05 終了 10.50 3ピッチ

壁の岩がしがり(いて)て、ホールドやスタンスがわりにあるため、楽に登れた。上部は高度感かすばらしく、これで岩登りといふ感を満喫できた。

• C face 劍綾会ルート 北岡(Top)、小川 (藤原記)

開始 10.30 終了 12.00 4ピッチ

また岩の良さが解らない。何故岩を登るのか解らない。登りたい気も起らぬ。登っている時の快適さもない。そして、登ってからの痛快、喜びもない。何故だろう——? (小川 記)

他の人は熊岩にて、じっくり荒さかし(?)しながら、見学。

熊岩(12.40) → BC(13.20)

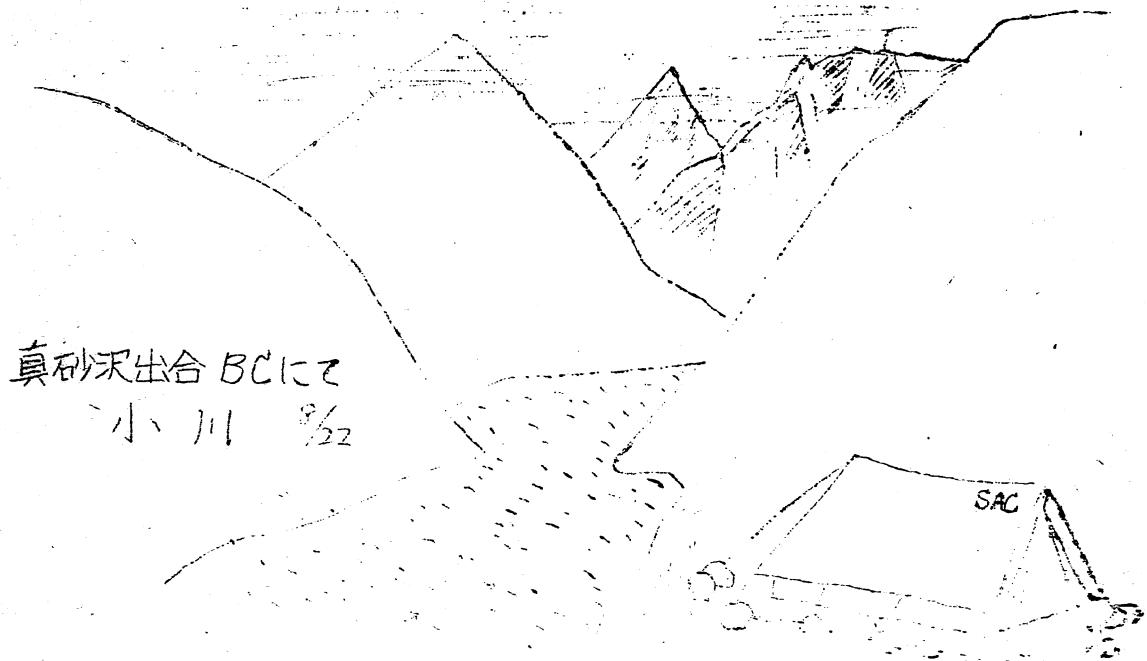
8月30日 ○→①

現地解散して、川口、吉田は三ノ窓へ(この山行記録次頁) 三坂は
室堂より富山へ。(BC 6.50 → 乗越 9.20 → 室堂 11.00 → 富山 14.30)
三井以下13名は往路を下山。

(6.50) BC出発 → ハシゴ谷乗越 (8.30) → 内蔵助平 (9.10)
兩が谷谷へ

→ (12.45) 黒四ダム

黒四最後の登りは30分、思ったより楽だった。女人人がいはづいたので
うれしくてしかたなかった。(育藤 記)



合宿後 乡窓上川阿曾原塗田黒四へ

冬 Member 川口 隆 吉田秀穂

行動記録

8月30日 真砂沢B.C. — 熊ノ岩一地1年林越
— 三1窓 チンネ左千カシテ登攀

雨
も
霧

雨の中を撤収後、千山連中を遙り出し、三
窓へ向う、熊ノ岩で秋山君達に一時内
程もてなして、豈い雨もどんだので、バス
の中を三1窓へ、小窓の王よりの岩小
屋にツルトを張り、ニビリ過す。
午後よりが久も薄くはつたので左下ガ
ニテに取り付く、終ア止くに雨が降り始
め左の岩小屋に出で、三本ツヤ所を半
下よりニードル千に出て三1窓に退散

8月31日 三1窓 — 小窓 — 地1年小屋 — 阿曾原
(2.20) (3.30) (14.20) (12.00)
チンネ ベルニナルトヘ左千カシテ登攀

晴
山
霧

目が覚めると外は朝霞の星、急いで
ESSENを作り、日出ととちにツルトを
出て、キンズに取り付く、朝日と給びな
がらの登攀は快適であった。じつくりと
柴し分作から登攀を終え、三1窓より
小窓、王の岩小屋を通り、小窓よりなんとか
バスの中を若千迷走、小窓雪岸にある銅山跡
三1窓よりの大窓の岩岸を遙に入る。この
がら地1年小屋への巻き道を遙り、
道はほんま平野を断り渠は道であるが、
て何よりも、裏チンネがすばらしく。

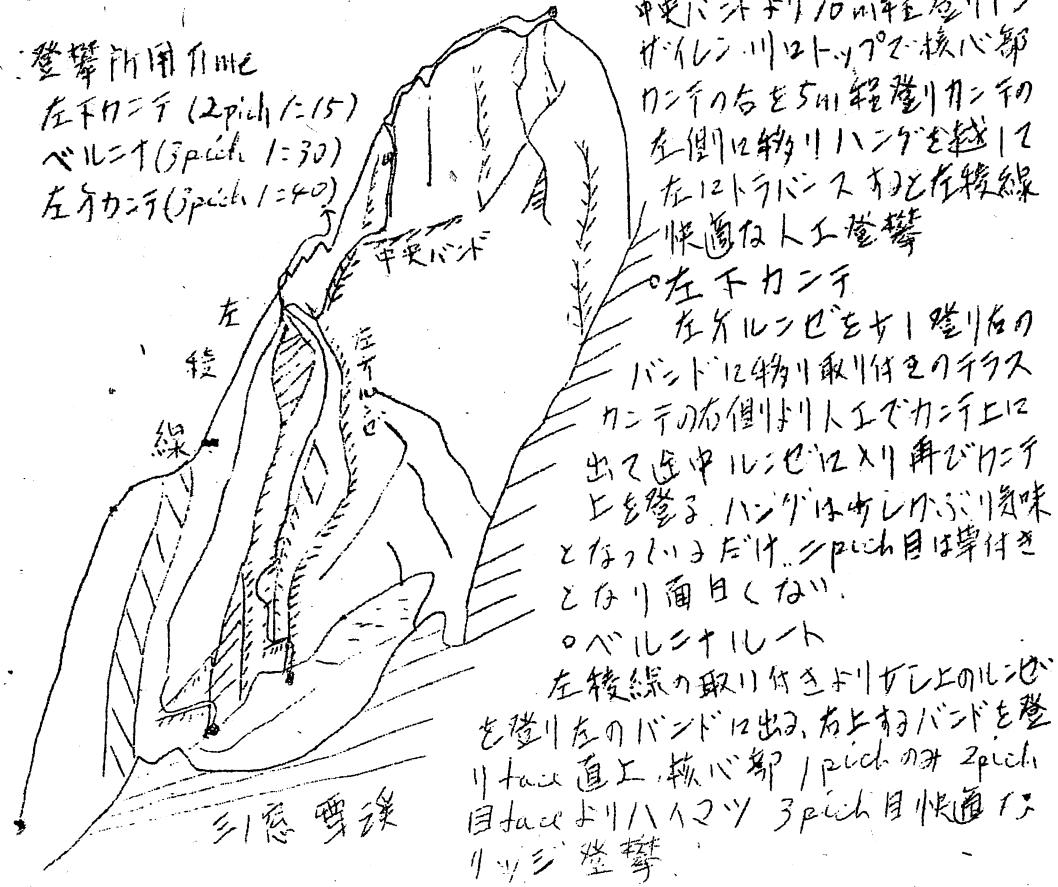
絶1 平洋もウチと盛り込めていつありと
ていた、仙人坐久しぶりに木汗を流して
下る。阿曾原山は情性でからういてたり
かけた。

9月1日 阿曾原—十字峠—内蔵1助出合—黒四ダム
(6.20) (9.00) (12.40) (14.20)

晴

朝日浴に入り出発、黒部川谷に出現した林
道やラビルディングに驚き、水平道を進み
十字峠に出る、道は整備されていて、ウケ
ツに木支柱をしていて落きるので注意が
必要。白竜峡全体が悪くナワバリなどが
あった。別山周辺は西岸あほうレッキ壁群であ
り興味をそそる。内蔵1助出合カリ手を
焼かれた道を黒四へ、

登攀所用用具等
左下カニテ(2pitch 1=15)
ベルニテ(3pitch 1=30)
左オカニテ(3pitch 1=40)



左カニテ

中央バードギア10cm程登り左
サイレンジルロット、70°、核心部
カニテの右側を5cm程登りカニテ初
左側は物干リハングを越して
左12トラバース右12cm程線
快適なトエ登攀

左下カニテ

左オルフェセをサイ登り右の
バンドに物干取付けるテクス
カニテの右側はリトエでカニテ上に
出て途中ルニセに入再びカニテ
上を登る。ハングはカレカラが味
となる。15cmだけ。3pitch目は草付き
となり面白くない。

ベルニテルート

左縁線の取付をドリゲレのルート
を登り左のバンドに出て、右上ねばンドを登
リ1face直上核心部 1pitchの左 2pitch
目 faceよりハイマツ 3pitch目 快適な
リツジ登攀

四 個人の感想

山某山は金渕ノミを載せたかと云ふ。義理の都合
以下の5名のササツニ譲る、ハニに載せた。

一年 小川章三

確かに、あの岩と雪の剣には感激した。

ところが、私個人にとっては10日間が死の世界だった。

今までの私の山行は、下山日及びその前日と本日と、いつも遅しかった。
心が沈んでいた。と云うのは、「また下界の煩いが待つ」とある、「さう思える
だけ、山を離れるのが辛かった。新人合宿の時も、往復の時もどうがた。
勿論、高校以前の山行もそうだった。少しでも山に長く居たいと思つたものだ。

しかし、今回の合宿ではどうだ、全く逆なのがある。毎日、へ思つた。
「今合宿か逃げ出したか」、「早く下山したい」と。何故だろう?

下して一週間だった今、あの時の靴ズレはまだ痛い。あの時の
ザックザルもまだ治ってない。しかし、これだけが本の書込みの
原因本つかうのか?

岩登り初体験の一年生(全員が未だ)は、もと登ったかた
がのまことに残念がっている。SUNACの一年生を羨しいが、これ。
しかし、同じ一年生の私は何も感じない。岩登りを凝視している私は
登攀中及び登攀後も何の快感も味わえない。確かに登攀中
テラスで確保している時に、ひと景色を眺めた時、「剣の岩を攀じて
いるんだな」という実感はまったく。それいいださうか---

合宿とは訓練の場だと云う。私も訓練されにこの山岳部に入
た筈なのに、今回の合宿山岳部をやめたいとさえ思ったのは、私の
忍耐不足が原因だろうから、私の甘えの精神が原因だろうから、
大学山岳部の合宿に絶対を持てない私が、決まりも積算期
登山も体験してみたかと思つてゐる私は、まだ部をやめられ
ないがいい。

一年 成藤時盛

今度、合宿では毎日一色の事をを楽しめた。自分は本当に山
岳部に入っていた方がいいかと思った。山に入る前が重負荷で、やる気
が全く出なかたし、山へ入っても風邪をひいて体調が悪かつたので
あまり楽しめた。荷物が重いのも苦しい事はまだあります。自分が
「行きたくなっ所へ行く人は、本当につらいことがあります。山以外にも

やむたの事はたくさんあるが、合宿などがあると、どうしても山中心となり、他の事は二の次となる。こういう内豊原はそこでも今までないのが、自分入山に対する考え方と山岳部の方向とは、少しいい違う。といふより気がしないでもないのがある。『さういはしても冬山は元気張って、じっくり結論を出してもいいと思つ。合宿ばかりではないが、山へ入る、いざくまと里川は見られ奉り現象が起こつてくる。僕は2年生とか1年生なんかに多く見つけたやうな気がする。4年生は、人間が生きるが、原因はつかないが、あまり感じなかつた。だから、いつもはいい人だと思つたのに、失望させられた人も何人がいた。もっと『3年春をたのんであるが、ここではこの位にして、少し自分の反省を書く。まず第一に体調子が悪かったこともあるが、全こにやる気がなくて、全くズクをしてしまつた。それから、バランスが悪くて、去年に比べると岩土場で信心が少しあり位苦労した。これはよがれたことであるが、みんなの性格が変わらなかつた。最後に剣の石を4つ持つて、これまで記念にして、苦勞を思ひ出します。

2年 吉田秀樹

剣岳をよく見る事ができた合宿であった。
合宿後の今は、概念ルートも大分はっきりしてしまつたが、前的研究とすると非常にあいまいで、た。合宿前の合同会議とく（1年生が間違つても差がまづいとは思つてもいた）。1年生を画面に入れたり、最終日は皆登りとく、その他諸々を見ても、かれにも合宿らしい感じで成功したと思ひます。しかし、2年生のfixの張り方の練習は中途半端な感じを受けました。
天候があまりよくなりずしかったのが非常に残念でした。
1年生には、何よりも登りたいという意欲だけが合宿への積極的参加ではなき事をよくつかか、でもいいとか、たし、といふ事や他の事で1年生へ不行届立意を見抜かしも的確に指導できなかつた。

牛金 中田 勝

個人が合宿が岩登りを中心とした合宿であるとハラヒニの合宿が意味をもつ何ものかがあるのかないか、岩登りだけの山行ならば何もいふ大がかりな合宿をせず、分散させた各地区せんばすおひのである。

そこで今合宿の感想等につけて考えてみる。特に2年生について、彼らはよくシゴッケ、またよく頑張っていいと思ふが、そのせいもあり、山行における調子はなかなか良いが不足・不備な点が見出された。ルートファインディングについてはほとんどの2年生は正解が多くない。特に悪いものいる。しかし、2年生としてのルートファインディングに関する自信というものが持たれないとどうことは残念である。テントワーク、これも土年生をうまく使いこなしていいように思われるし、また、せせらぎなどない森の往事、つまり、起きごろソフに座るなど、出発時やテント整玉里その他のこと。帰天時やテント検査、就寝前の検査などいろいろ気がつかないことがあります。特に1年生を強く指導できなくては致命的本欠陥がある。

1年生に対するにはどこかしらに、あまり明確でないと言えないので、何々人が「やうやうで」、「一ダ」と八方に若干本が少く意図の疎遠を欠いていたのではないかと思う。さらに合宿のリーダー以外のリーダー会部員及びリーダー会の取り組み方にもまた、せせらぎなどのことは思われる。やはり厳密な意味でのリーダー会の検討が抜けやが、それだけ計画もしつかないしまた、大事なことこのままであるが、合宿のリーダーだけに大きな負担がかかるすぎてしまうと思われる。この点、ぼく個人としては大きく反省している次第である。

牛年 三日 隆

新人合宿へ反動もあり、毎晩茶会等で9日間を過ごせました。この点については4年生と云々主導するも原本ど若干危た氣がしないどもないが、甚め並んで下さい。

行動面では体調も良く、岩にもなじみ、十分岩登りを堪能させることができました。残念なのは、2年生とはリーダーを十分組み立たず、新人と1日のみがまた云々と云う。3年生がいなへて仕事なればいえば、そこまで云うけれど、

腹部の抜けについては、よく入山させた事と感心してまいります。お忙しいところお手数ですが、お手紙を送りませんか? 最近は丘藤さん、入山以前の基本的な本などを全くわからずない、特に3年生よりも多い。S-Lでもあるはずの腹部は全くそこにはいません。

2年生以上多くが新規（＝1年生が切手を11枚）不購入者も漸減傾向。年々少しずつ減少傾向。

新人は口数が多いのに勝手な行動か、本職を除けば
まだ多くいらっしゃる。多くの面で期待されましたが感じました。
それはついでも、いつまでも4年目に在りしまい、我々が
新人の時との違いを感じます。私はもう4年、又4年目との
エラクズクが在りてしまつていいことに反省させされました。
最後に三井君 御苦勞下さいました。コワイコワイ「一々」
であります。頼もしくリーダーになりました。

九、C#1

各係、報研、反省

6 記錄係

- 記録係としては、公記録とて3冊のスケッチブックを用意したが、指示通りにその日のうちに記録をつけて係へと持て来るかうにといふことが、とくに1年生が忙しかったせもある、これまでなかなかたのは残念である。
 - スケッチブックが「3冊で足りない」といふ声もあるが、もっと円滑に、所持したものがすぐ書いて次の人に回すとかすればよが、たゞではないか。
その他の記録係の配慮が欠けていたことは反省している。
 - 特に新人に対する記録の書き方への指導（ルート図の書き方等）が不十分で、そのため、完全には記録がとれなかつたと思ふ。
やはりこの点も反省すべきである。

Essen係

先づ予算がオーバーしたこと、並びにそれなりに特別な内容のあったことをお詫びします。これは無論、我々 Essen 係の係員との無駄遣い等に起因するものであります。すなはち今回は重量・費用・味に対する重視を強くともなし、たゞ 10 日間の食料をそろえただけという結果ではござらず、費用を考慮するとか、朝はラーメン類などはやめ、おつりしたものにするとか、食生活にていためではあり、無計画性というよりはそれを実行するだけの能力に欠けていたのが本音かも知れません。

以下添付「大意」を述べます。

- 食事は本格的よりはどちらかはつきりしたものばかり、たゞ。
- つづいては回転寿司のものを利用できました。これは提出の時徹底してよくじきで、たゞ。
- 食パンはカビるから入当日又利用できました。
- いよいよ本題が、たゞ。他に乾燥野菜にて千切り、小切れなどを持ち、と行くべきだ、たゞ。

機器係

今回我々 3 名は、定着合宿の機器係として、合宿の準備、運送中の整理、輸送未了中止となりて機器にたゞさりましたが、焼山にて一年と慣れてしも、2 年のトライで、ごまとう奈いや、ボロが一晩で出でまいりました。他の部屋、リーダーに迷惑をかけさせた事をお詫びする所がござります。以下に大きな備え付いた事を羅列します。

1. オゾイザイルを持ち、と行き、おまけに貸し出しました。
2. 貸出・返却の仕方がまずか、たゞ。(合宿前に再三の注意があつた)
3. 後日またのトランシーバーを持ち、と行、たゞ。
4. ハリ金、ナタを忘れた。
5. ローソク(50 号)は Essen 天以外は 1 本でいい。
6. シュリンクの古いのはやめた方がいい。以後シュリンクも個装し、残置用にて部屋を持ち、てはどうか。

7. スコップは後継車へのことはないか。 タタ・ヨギリにつけても
車券が必要。
8. ピナは、油をさして車と持つて行くと、したがいに音響子が
運んで来る。
9. 石油 (4L) タイヤ (12L) が多すぎた。(1人当たり、
1日 80cc・60cc) ... (秀) タイヤは3L程度もった。
10. 残置したもの、ハーフン 3-2-1、シユリング 4。
取得アラミ 1.

8 医療係

ついで、今合宿は「断続的」である。入山を前に部員の
不規生にあり、あれ程多く多くの風邪患者が出、といふこと。
いくつも大事態をもと嚴しくはじめなければならぬ。
医療、管理が難かった。

9 天気係

天気図と雲の記録とはよる天候の繪括。

作成 ... 高千平、小川。
検査 ... 係長、白井。

ハジメニ: これま、前回、天気図を基にした天気予想と、当日の
天候との関連をまとめたものである。

- 8/21. 天気図から判断すると、三陸沖に小さな前線を伴った低気
圧があるが、小笠原高気圧域近く朝鮮半島までまたくどい
為、夏型の良天候が予想される。また、この高気圧の為、中部
地方に地形性低気圧がある為、夕立の心配が予想される。
当日は予想通り、積雲のある典型的な夏の模様に至った。
そして正午を過ぎると、なんだん雲量が増し、内蔵助平に着
いてから、小雨が止らず、小さな空少立が止った。
これも予想通りだ。

8/22. 20日に黄海付近にて、大前線が満州で低気圧にな、て
65kmといつ猛スピードで東に進んでいる。この影響が山配
だが、依然として小笠原高が朝鮮半島等に判出している。
午前中は晴れるとと思ひ、午後には雨が予想される。

しかし、当日は朝晴れで、日中ずっと雲、212、雨が
降り始めた。積雲で午後からはかたり雲底が下がり、たゞ
どういう誤か降り立たず、たまは幸運(?)である、た。
この低気圧が弱か、たせいでまとまら。

8/23. 21日の低気圧は千島列島等で去ってしまい、前線も日本
海から黄海にまで伸びてゐるが、高気圧の影響で前線が
下り立たず、たま、22日は雨が降り立たないのだろう。

また、22日はモンゴル東とベイカル湖東にも高気圧が
立たず、ここには日本海天がやがて立つ。

23日は昨日午前中は立つとか天気図をたが、レンズ
雲が発生した為、午後に高層雲で空一面あおわれ、
3時半頃から雨になってしまった。先日、低気圧があまりにも
速いスピードで日本海を横切った為、レンズ雲が発生
したのである。これで見抜け立たたずは立んとも書け
ない。しかもそれはかりで立たず、23日皆日の天気図を
見ると、小笠原高が弱まり、そして、モンゴル東へ高気圧が
押され、その前線が下がり、日本を縦断し、その前線
上に3つも低気圧がでてきている。この影響で
雨になつた、たゞまとまら。

8/24. この低気圧家族は立たずも停滯している為、雨は確
実と思われる。

その通り、当日は雨になり沈没である。

8/25. 夏型の気圧配置はす、かり崩れ、日本はすかり高圧の谷に
陥り、また、モンゴルにも低気圧が生まれ、雨は免れないと思ふ。
やはり、一日中高層雲があおわれ、ぐずついた天気である。
たゞ、沈没が今日も続いた。

8/26. 雨を降らした低気圧家族がやっくりと本音が動きだし、
その為、気圧の谷が西から東に移る事に至るが、天気は
しだいに回復すると思われるが、期待は持てない。
不安定な天気が続く事は確かだ。

その通り、当時は一回中不安定な天気で、時々雨も降
るが、朝一時、雨が止んでいたので行動させられた。
一日中層雲がまぶしかったのは、やはりまだ低気圧の影響(?)。

8/27. 例の低気圧が一部消滅して前線が消え、東北東に進
むが、また、朝鮮半島に高気圧が発生し、気圧の谷も
移動してくるが、天気は回復に向かって温まる。
しかし、満州に弱い低気圧があり、油断はできない。

雨こそ降らずだったが、一日中積雲がさすっていました。
剣山は、遙天は遠く訪れるが、回復はなかなか時間が
かかる。しかし雨陣がいいので、少し回復は近い
感がある。

8/28. 天気図では、新潟にオホーリク海と陸東半島に前線を
伴した低気圧が発生し、ゆっくり東に動きこむが、回復は
心配だが、また、小笠原高気圧が朝鮮半島にはり付けている
が、雨の心配はないが、どうも安心できる天気図ではない
と思う。

しかし、この心配はなく、この日は久振りに一日中晴れで
くれた。小笠原高が勢力を回復した為だろう。

8/29. 地形性低気圧があるという事は、夏型の気圧配置が
回復した事を物語るが、27日の低気圧が依然としてある
が、完全な夏型ではないと思われる。だからこの両者の低気
圧への影響で好天は望めないが、雨の心配もないと思われる。

しかし、その低気圧の影響で一日中不安定で時々雨も
降る。やはり、もう秋本のじようか。こんなに毎日温帯低気圧
が発生したり、消滅したりする事はない。

小笠原高気圧サヨオナラ。

8/30. 29日の天気図がない為、省略せざるを得ない。アシカラズ。

オフリニ： 天気予想とは異なるものがあります。当古多回数
が少ないので情けない。気象係新人平としては
50点(?)位ほいな。係長さんお原意!!

反省

一走りつとして気象にたずさわったわけですが、後半に至り行動が不規則になり、それに伴い毎日の記録をつけてもうことをあるをかいにしたことばかり誤解されると思いました。
新人平の小川君には、輸入山前・入山中と何もしてもらえなかっただし、何をさせられたのか、たへど、入山後に監玉室でしてもらいました。大体にあれど目的は果せたと感づか。これを今後 どうつかうか 説明できるように。

⑧ 会計・済外

会計：金の管理に大いに問題があった。あまり燃えなかったらしい。
本当に皆さんに心配をかけさせました。今回あとから追加金を取り、結局 1300円集めたりましたが物価、交通費の値上がりが激しいなりでまだ程度がしかたないと思いませんが。記・装・気係のスケジュール（余ったやうの多いの）や、Essen のVivette の余せ金多分にあると思います。

済外：今合宿では大きな支障はきたしませんでしたが、したが、配達を忘れるとは、全くプロ意識欠けます。最近入 M Taxi はどうかしてます。

会計表	
交通費(往)	26550 円
Essen	61528 円
装備費	11910 円
天塀代	1700 円
その他(スケジュール)	370 円
	102058 円

収入	128600 円
支出	102058 円
	21590 円
残金	2948 円
返金	2890 円
	58 円

昭和45年10月25日
昭和45年10月25日
120枚
新規
前記

乱丁、落丁、未入社、対象井戸
11社(半社)。
計11社。